

大気汚染物質排出量 調査票作成の手引き

目 次

- 1 大気汚染物質排出量調査の概要
- 2 調査票の作成方法
- 3 調査票の提出方法・提出先
- 4 施設一覧表の記載事項を変更する場合
別表 燃料記号、名称及び使用量の単位

入力例 1 非常用施設（使用実績のなかった施設）

入力例 2 使用実績のあった施設

令和 7 年 5 月

横浜市 みどり環境局

大気・音環境課 大気担当

1 大気汚染物質排出量調査の概要

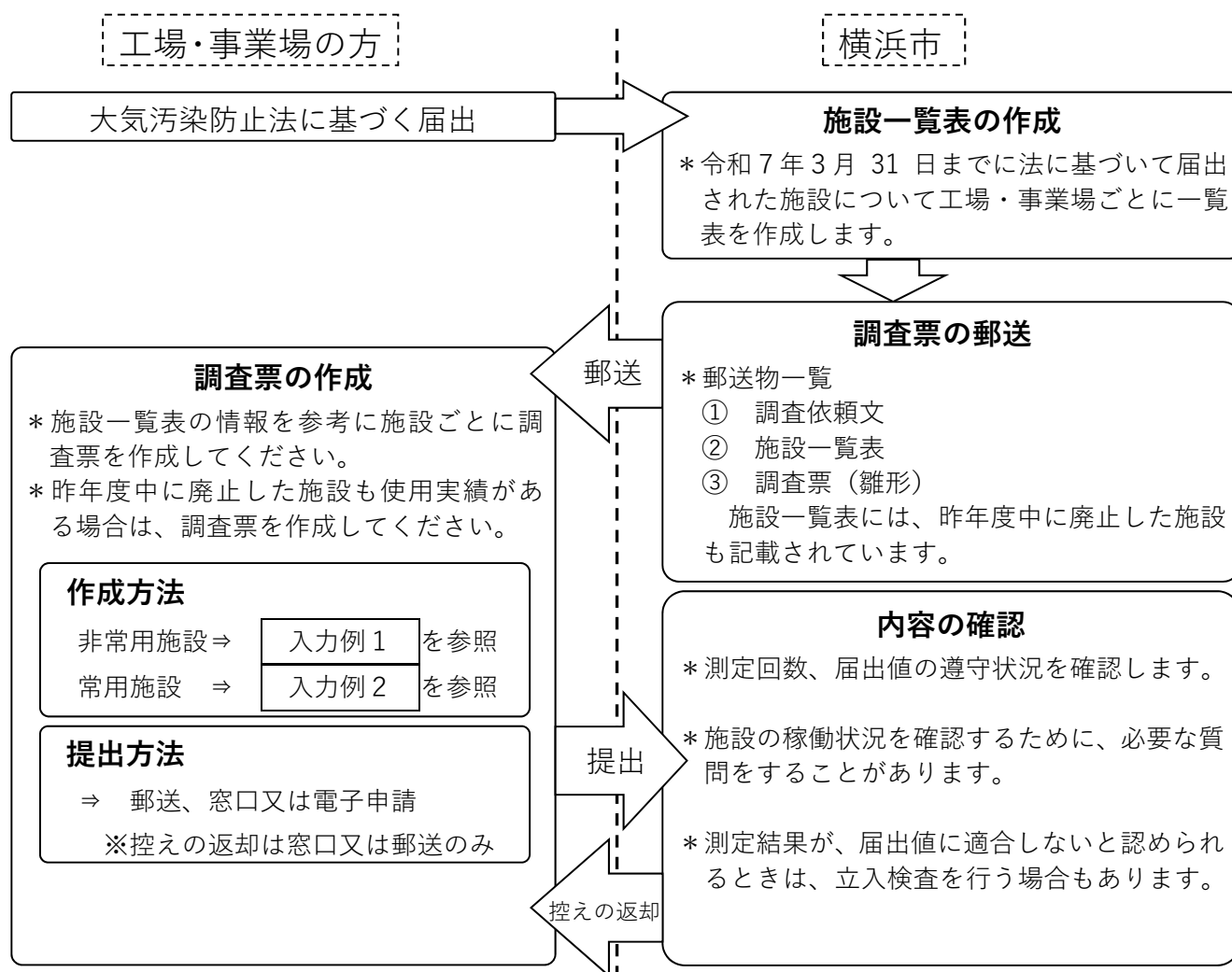
(1) 調査の目的

工場や事業場に設置された「ばい煙発生施設」(以下「施設」といいます。)は、「大気汚染防止法」(以下「法」といいます。)や「横浜市生活環境の保全等に関する条例」(以下「条例」といいます。)に基づくばい煙測定を行うことが義務づけられています。

横浜市では、法・条例に基づく測定回数と規制基準の遵守状況を確認することを目的に、法に基づく届出がされた工場や事業場の方に、「大気汚染物質排出量調査票」(以下「調査票」といいます。)を年に1回程度お送りし、必要事項を記入してご提出いただくことをお願いしています。

なお、本調査結果は、環境行政の基礎資料とするため、国や県に情報提供する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

(2) 調査の流れ



2 調査票の作成方法

調査票は1施設につき1枚作成してください。

調査票の作成方法は、次の2種類があります。

簡単に調査票が作成できます
ボイラ・冷温水発生機・
ガスエンジンに おすすめ！

(1) 「らくらく調査票」を利用する

燃料使用量及び測定結果を入力するだけで、調査票の作成に必要な計算が自動で行われる「らくらく調査票」をウェブページに掲載しています。

らくらく調査票に事業所・施設に係る情報など必要事項を入力し、施設ごとに調査票を作成してください。

「らくらく調査票の使い方」をご覧ください。

※よくある質問について、ウェブページにQA集を公開しています。入力方法等について、ご不明な点等がございましたら、お問合せの前にご確認をお願いします。

(2) 「調査票（雛形）」を利用する

複数施設で煙突を共有、特殊な燃料を使用しているなど「らくらく調査票」では調査票の作成に必要な計算を行えない場合は、「大気汚染物質排出量調査票（雛形）」をダウンロードし、事業所・施設に係る情報、燃料使用量、測定結果及び計算結果を入力して、施設ごとに調査票を作成してください。

非常用施設（使用実績のなかった施設）は **入力例1** をご覧ください。

使用実績のあった施設は **入力例2** をご覧ください。

3 調査票の提出方法・提出先

(1) 郵送での提出

調査票の記載内容に不備・不足がないことを確認後、郵送してください。なお、提出は1部で構いません。控えが必要な場合は、調査票2部と返信用封筒（返信用切手を貼って返信先を記載したもの。）を同封の上、郵送してください。受付印を押印後、1部を返信します。

郵送先 | 〒231-0005 横浜市中区本町6丁目50-10
みどり環境局 大気・音環境課 大気担当 宛
電話 | 045-671-3843

※受付まで日数を要する場合があります。

※調査票の内容について確認する場合がありますので、調査票の記載担当者を必ず記載してください。

(2) 窓口での提出

調査票の記載内容に不備・不足がないことを窓口で確認後、提出となります。なお、提出は、1部で構いません。控えが必要な場合は、窓口で2部お持ちください。受付印を押印後、その場で1部をお返しします。

受付場所 | みどり環境局 大気・音環境課 大気担当
横浜市庁舎 27階南側（緑）（横浜市中区本町6丁目50-10）
受付時間 | 月曜日～金曜日
（土日祝日を除く）8:45～17:00
電話 | 045-671-3843



(3) 電子申請での提出

調査票を電子データ（xlsx, pdfの拡張子に限る。）で作成し、横浜市電子申請・届出システムを使って提出してください。調査票の内容に不備・不足がないことを確認後、受理となります。控えの返却はありません。

【大気汚染】令和7年度大気汚染物質排出量調査（横浜市電子申請・届出システム）

<https://shinsei.city.yokohama.lg.jp/cu/141003/ea/residents/procedures/apply/dbf78da6-67f1-47de-a7bd-5c981b69d0d0/start>

4 施設一覧表の記載事項を変更する場合

施設一覧表は、各事業者からの法に基づく届出内容から作成しています。

施設一覧表の記載事項（工場・事業場の名称、所在地及び施設の設置・廃止等）が現状と異なっている場合は、法に基づく届出手続きが必要な場合があります。

（１）届出が必要な場合・届出をする時期

届出が必要な場合	届出書名称	届出時期
ばい煙発生施設の設置	ばい煙発生施設設置届出書	工事着工の 60 日前まで
ばい煙発生施設の構造変更、 使用方法変更 ばい煙の処理方法の変更	ばい煙発生施設変更届出書	
法人名称の変更、住所の変更、 代表者の変更 ----- 工場・事業場の名称変更、 住所表記の変更	氏名等変更届出書	
ばい煙発生施設の譲り受け、 借り受け ----- 法人の相続、合併、分割	承継届出書	事由発生後 30 日以内
ばい煙発生施設の廃止 (一部廃止も含む)	使用廃止届出書	

（２）届出様式・提出部数

届出様式は、ウェブページからダウンロードできますので、必要事項を記載して提出してください。提出部数は正副２部です。

ばい煙発生施設に関する手続き - 横浜市

[https://www.city.yokohama.lg.jp/business/bunyabetsu/kankyo-koen-
gesui/kiseishido/akushu/taikihaien/taikipan.html](https://www.city.yokohama.lg.jp/business/bunyabetsu/kankyo-koen-gesui/kiseishido/akushu/taikihaien/taikipan.html)

また、ばい煙発生施設の種類によっては、「横浜市生活環境の保全等に関する条例」の許可申請等が必要な場合がありますので、ウェブページをご確認ください。

（３）電気事業法等に係る発電機等（常用・非常用）の届出

経済産業省 関東東北産業保安監督部 電力安全課へ届出が必要です。

電話：048-600-0391～2

関東東北産業保安監督部 - 経済産業省

<https://www.safety-kanto.meti.go.jp/>

入力例1 非常用施設（使用実績のなかった施設）

ア

大気汚染物質排出量調査票 令和 年 4 月 1 日 ~ 令和 年 3 月 31 日実績) 送付番号

1. 工場・事業場の概要

工場・事業場名称		①
所在地	〒	
大防法番号		

記載 担当者	所属	A
	電話番号	
	フリガナ	
	氏名	

2. 施設の概要

施設番号	施設種別	施設名称	届出施設名称	施設設置年月	年度間乾き排出ガス量 (10 ³ m ³ /年)

3. 燃料使用量

燃料 番号	硫黄分 (%)	窒素分 (%)	比重 (kg/L)	高発熱量 (kJ/kg)	月間燃料使用量①	月間燃料使用量②	月間燃料使用量③	月間燃料使用量④
①					4月			
					5月			
					6月			
					7月			
					8月			
②					9月			
					10月			
					11月			
					12月			
③					1月			
					2月			
					3月			
④					合計			

入力不要です

4. 測定結果

測 定 日	実測SO _x 濃度 (ppm)	実測NO _x 濃度 (ppm)	実測ばいじん濃度 (g/m ³)	実測HCl濃度 (g/m ³)	実測NH ₃ 濃度 (ppm)	O ₂ 濃度 (%)	水分量 (%)	測定時の乾き排出ガス量 (m ³ /年/種)	測定時の燃料使用量 (m ³ /L/kg/種)
年 月 日									

5. ばい煙排出量

ばい煙の年度間排出量	備考
SO _x	
NO _x	
ばいじん	

1 横浜市から送付した「施設一覧表」に記載の情報を入力してください。

入力箇所	調査票の項目	施設一覧表の項目
㊦	送付番号	送付番号 □／□（分母：施設の総数 分子：施設一覧表の No.）
㊧	1. 工場・事業場の概要	工場・事業場名称 所在地 大防法番号
㊨	2. 施設の概要	施設番号 施設種別 施設名称 届出施設名称 施設設置年月

2 調査票を作成した方の情報を入力してください。

入力箇所	調査票の項目名	入力方法
A	記載担当者	調査票を作成された方の所属、電話番号、氏名（フリガナ）を入力してください。当課からの問合せの際に使います。 施設管理会社の方でも構いません。

3 前年度の施設の稼働状況に係る情報を入力してください。

入力箇所	調査票の項目名	入力方法
B	年度間乾き排出ガス量	定期的な点検以外に使用実績がなかった施設は、「0」を入力してください。

入力例 2 常用施設（使用実績があった施設）

大気汚染物質排出量調査票

令和 年4月1日～令和 年3月31日実績)送付番号 /

提出期限 令和 年6月30日

1. 工場・事業場の概要

工場・事業場名称			
所在地			
大防法番号			

記載者	所属	A
担当者	電話番号	
	フリガナ氏名	

2. 施設の概要

施設番号	施設種別	施設名称	届出施設名称	施設設置年月

年度間総き排ガス量 (10^3 m^3) D 計算①

3. 燃料使用量

燃料記号	硫黄分 (%)	窒素分 (%)	比重 (k J)	高発熱量 (k J)
1				
2				
3				
4				

	月間燃料使用量①	月間燃料使用量②	月間燃料使用量③	月間燃料使用量④
4月				
5月				
6月				
7月				
8月				
9月				
10月				
11月				
12月				
1月				
2月				
3月				
合計				

B

4. 測定結果

測 定 年 月 日	実測SOx濃度 (ppm)	実測NOx濃度 (ppm)	実測ばいじん濃度 (g/m^3)	実測HCl濃度 (g/m^3)	実測NH ₃ 濃度 (ppm)	O ₂ 濃度 (%)	水分量 (%)	測定時の総き排ガス量 ($\text{m}^3/\text{時}$)	測定時の燃料使用量 (時間) ($\text{m}^3_{\text{N}} \cdot \text{L/kg}/\text{時}$)

C

5. ばい煙排出量

ばい煙の年間排出量	
SOx	kg
NOx	kg
HCl+HF	kg

E 計算②

F

1 横浜市から送付した「施設一覧表」に記載の情報を入力してください。

入力箇所	調査票の項目	施設一覧表の項目
㊦	送付番号等	送付番号 ／ (分子：施設一覧表の No 分母：施設の総数)
㊧	1. 工場・事業場の概要	工場・事業場名称 所在地 大防法番号
㊨	2. 施設の概要	施設番号 施設種別 施設名称 届出施設名称 施設設置年月
㊩	3. 燃原料使用量	基本的に入力不要です。 特殊な燃料を使用している場合は入力してください。 (硫黄分、窒素分、比重、高発熱量)

2 調査票を作成した方の情報を入力してください。

A 記載担当者

調査票を作成された方の所属、電話番号、氏名（フリガナ）を入力してください。
当課からの問合せの際に使います。施設管理会社の方でも構いません。

3 前年度の施設の稼働状況に係る情報を入力してください。

B 月間燃原料使用量

青のセルに燃原料の名称を、オレンジのセルに月ごとの燃原料使用量を入力し、合計欄には、当該年度の年間使用量の合計値を入力してください。

燃原料の名称は、横浜市から送付した「施設一覧表」に記載の燃料記号と「別表 燃料記号、名称及び使用量の単位」を照らし合わせて入力してください。

C 測定結果

当該年度に実施した排出ガスの測定結果を入力してください。

連続測定を行っている場合は、2か月ごとの平均値を入力し、6回分のデータを入力してください。測定結果が**定量下限未満の場合、「定量下限値+未満」（例：0.001 未満）と入力**してください。なお、分析会社から発行される計量証明書の添付は不要です。

項目名	記入方法
測定年月日	測定を実施した年月日を入力 連続測定の場合 4/1 6/1 8/1 10/1 12/1 2/1 とし てください。
実測SO _x （硫黄酸化物）濃度	ppm単位で入力
実測NO _x （窒素酸化物）濃度	ppm単位で入力
実測ばいじん濃度※	g/m ³ N単位で、小数点以下第3位まで入力 ※年度内にばいじんを測定していない場合は、備考欄に 直近の測定日と濃度を入力してください。
実測HCl（塩化水素）濃度	mg/m ³ N単位で、小数点以下第1位まで入力
実測NH ₃ （アンモニア）濃度	ppm単位で、小数点以下第1位まで入力
O ₂ （酸素）濃度	排出ガス（乾き）中の実測値を％表示で、小数点以下第1位ま で入力
水分量	排出ガス中の実測値を％表示で、小数点以下第1位まで入力
測定時の乾き排出ガス量	m ³ N/h単位で入力
測定時の燃原料使用量（時間）	測定時の1時間当たりの燃原料使用量を小数点以下第1位ま で入力 燃原料の種類ごとの単位は「別表1 燃料記号、名称及び使 用量の単位」のとおりです。

D 年度間乾き排出ガス量

計算①

当該年度に排出した排出ガス量（乾き）を次の式を用いて計算し、計算値を $10^3 \text{ m}^3 \text{ N}$ 単位で入力してください。

$$Q = G \times 1/n \times (q_1/y_1 + q_2/y_2 + \dots + q_n/y_n)$$

Q ：年度間乾き排出ガス量

G ：年度間燃原料使用量⇒②月間燃原料使用量の合計値

n ：全測定回数

q_k ：全測定回 n 回目のうち k 回目に測定したときの排出ガス量（乾き）

y_k ：全測定回数 n 回目のうち k 回目に排出ガス量（乾き）を測定したときの燃原料使用量

計算例

当該年度に 2 回測定した場合（燃原料として気体燃料を使用）

・年度間燃原料使用量：38,410 $\text{m}^3 \text{ N}$

項目	1 回目	2 回目
排出ガス量（乾き）	804 $\text{m}^3 \text{ N/h}$	775 $\text{m}^3 \text{ N/h}$
燃料使用量	60 $\text{m}^3 \text{ N/h}$	57 $\text{m}^3 \text{ N/h}$

$$Q = 38,410 \times 1/2 \times (804/60 + 775/57)$$

$$= 38,410 \times 1/2 \times (13.4 + 13.6)$$

$$= 518,535 \text{ (m}^3 \text{ N)}$$

調査票には $10^3 \text{ m}^3 \text{ N}$ 単位で入力するので、

$$Q = 518,535 \text{ (m}^3 \text{ N)} \div 10^3 = 519 \times 10^3 \text{ (m}^3 \text{ N)}$$

調査票には、**年度間乾き排出ガス量 519 ($10^3 \text{ m}^3 \text{ N}$)** と入力。

備考 1

煙突を 2 施設以上で共有しており、施設ごとに排出ガス量（乾き）を測定している場合は、該当施設ごとに上記の式を用いて計算してください。

備考 2

煙突を 2 以上の施設で共有していて、排出ガス量（乾き）を施設ごとに区別できない場合は、計算 B の式より求めた全体の排出ガス量（乾き） Q を次式の例を参考に按分して記入してください。

排出ガス量を直接把握できない施設 a の排出ガス量 (Q_a) は、

$$Q_a = Y_a / (Y_a + Y_b) \times Q$$

a 以外の施設の排出ガス量 (Q_b) は、

$$Q_b = Q - Q_a$$

Q_a ：施設 a の年度間乾き排出ガス量

Y_a ：施設 a の月間燃原料使用量（合計）

Q_b ：煙突を共有している施設 a 以外の施設の年度間乾き排出ガス量

Y_b ：煙突を共有している施設 a 以外の施設の月間燃原料使用量（合計）

E ばい煙の年度間排出量																			
連続測定機等で把握している場合	当該年度で把握しているばい煙の排出量を、kg 単位で記入してください。																		
年度間乾き排出ガス量（計算 A で算出）とばい煙の測定結果から算出する方法	当該年度に排出した排出ガス量（乾き）は、計算 B の式を用いて値を出し、さらに次の計算式を用いて算出してください。 小数点第 1 以下は<u>切り上げ</u>してください。 <u>SO_x（硫黄酸化物）（kg）</u> $Q \times \overline{SOx} \times 64 \div 22,400$ <u>NO_x（窒素酸化物）（kg）</u> $Q \times \overline{NOx} \times 46 \div 22,400$ <u>ばいじん（kg）</u> $Q \times \overline{Dust}$ Q：年度間乾き排出ガス量（10³m³N） $\overline{SOx}$：SOx 濃度（ppm）の測定結果の平均 $\overline{NOx}$：NOx 濃度（ppm）の測定結果の平均 $\overline{Dust}$：ばいじん濃度（g/m³N）の測定結果の平均																		
計算例	当該年度に 2 回測定した場合（燃原料として気体燃料を使用） ・ 年度間燃原料使用量：38,410m³N <table><tr><th>項目</th><th>1 回目</th><th>2 回目</th></tr><tr><td>排出ガス量（乾き）</td><td>804 m³N/h</td><td>775 m³N/h</td></tr><tr><td>燃料使用量</td><td>60 m³N/h</td><td>57 m³N/h</td></tr><tr><td>実測 SO_x 濃度</td><td>10 ppm</td><td>11 ppm</td></tr><tr><td>実測 NO_x 濃度</td><td>25 ppm</td><td>31 ppm</td></tr><tr><td>実測ばいじん濃度</td><td>0.001 g/m³N</td><td>0.001 g/m³N</td></tr></table> ・ 計算 B で算出した年度間乾き排出ガス量 <u>519（10³m³N）</u> <u>SO_x（硫黄酸化物）（kg）</u> $519 \times ((10 + 11) \div 2) \times 64 \div 22,400 = 15.5 \div \underline{16\text{kg}}$ <u>NO_x（窒素酸化物）（kg）</u> $519 \times ((25 + 31) \div 2) \times 46 \div 22,400 = 29.8 \div \underline{30\text{kg}}$ <u>ばいじん（kg）</u> $519 \times ((0.001 + 0.001) \div 2) = 0.519 \div \underline{1\text{kg}}$	項目	1 回目	2 回目	排出ガス量（乾き）	804 m ³ N/h	775 m ³ N/h	燃料使用量	60 m ³ N/h	57 m ³ N/h	実測 SO _x 濃度	10 ppm	11 ppm	実測 NO _x 濃度	25 ppm	31 ppm	実測ばいじん濃度	0.001 g/m ³ N	0.001 g/m ³ N
項目	1 回目	2 回目																	
排出ガス量（乾き）	804 m ³ N/h	775 m ³ N/h																	
燃料使用量	60 m ³ N/h	57 m ³ N/h																	
実測 SO _x 濃度	10 ppm	11 ppm																	
実測 NO _x 濃度	25 ppm	31 ppm																	
実測ばいじん濃度	0.001 g/m ³ N	0.001 g/m ³ N																	

4 調査票の内容を補足することを入力してください。

F 備考

調査票の内容を補足する事柄その他参考となることについて入力してください。

- ・ 年度間の測定回数が遵守できなかった場合
遵守できなかった理由（施設故障、休止中、冬季のみの運転等）を入力してください。
- ・ 非常用発電機を点検以外に使用した場合
稼働した状況を入力してください。
- ・ 年度間にばいじんの測定を行っていない場合
直近の測定日と測定結果を入力してください。

別表 燃料記号、名称及び使用量の単位

気体燃料（m³N）

燃料 記号	名称
31	都市ガス（13A）
32	コークス炉ガス
33	高炉ガス
36	転炉ガス
37	オフガス
38	その他の気体燃料

気体燃料（k g）

燃料 記号	名称
34	LNG
35	LPG

液体燃料（L）

燃料 記号	名称
10	特 A 重油（LSA）
11	A 重油
12	B 重油
13	C 重油（LSC）
14	軽油
15	灯油
16	原油
18	ナフサ
19	その他の液体燃料

固体燃料（k g）

燃料 記号	名称
21	一般炭
22	コークス
23	木材
24	木炭
25	その他の固体燃料

電気（k W h）

燃料 記号	名称
61	電気

その他（k g）

燃料 記号	名称
51	パルプ廃液
53	一般廃棄物
54	産業廃棄物
55	その他の廃棄物

原料（k g）

燃料 記号	名称
41	鉄・鉄鉱石
42	硫化鉱
43	非鉄金属鉱石
44	原料炭
45	原料コークス
46	その他の原料

38 その他の気体燃料の例

天然ガス、炭田ガス、水素、アンモニア

22 コークスの例

一般燃料用石炭コークス 半成コークス、コーライト、チャー

25 その他の固体燃料の例

タール、アスファルト、ピッチ、グリース、パラフィン、石油コークス、練炭、豆炭、ポリマー、廃タイヤ

45 原料コークスの例

還元用コークス